

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2024 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回建築系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2024 年11月 29日(金)15 時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 2階 205教室
参 加 者	<外部委員:3 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 稲村 健一(株式会社稲村デザイン建築研究所) 佐藤 剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房) 荻野 敦 (清水建設株式会社) <内部委員:4 名> 甲田 竜雄 (専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長 兼 建築監督科科长) 野上 和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木 昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科长) 山下 光成 (同 建築監督科教員、書記)
	<系別分科会>(第二部) 1.議長挨拶 2.前回(系別分科会)議事録の確認 3.意見交換
討 議 内 容	■建築監督科 分科会 【野上】 令和 8 年 4 月 1 日から施行される『学校教育法の一部を改正する法律(令和 6 年法律第 50 号)』を踏まえ、既存学科のコンセプトや授業内容等の見直しについて議論を進めていきたい。 【甲田】 大学等との制度的整合性を高めるため『単位制』の導入を検討している。 また、単位制を導入することで、5期制から4期制への移行に加え、カリキュラム変更・届出等も必要となる。 (4期制とした場合の年間教育予定表(案)を用いて年間スケジュールを説明) 【甲田】 建築監督科の学科コンセプト及び新カリキュラム(案)について説明 【野上】 建築科の学科コンセプト及び新カリキュラム(案)について説明 【稲村委員】 カリキュラムの見直しや指導方法の工夫・改善だけでは、実習課題等における各種図面の精度向上には限界があると感じている。そこで、卒業設計展や建物施設の見学など、校外学習の機会を更に増やすことを検討する必要があると思われる。また、設計コンペティション等への参加も、学生の技術向上や意識改革において有効な手段の一つであると考ええる。 【稲村委員】 資格取得の実績向上については、既存のリソースに加えて専用コンテンツやアプリケーションの導入を検討すべきである。 【荻野委員】 大手主要ゼネコンの新入社員や若手社員については、研修や予備校等で資格対策講座を受講しているケースが多いため、専門学校在学中における資格対策の強化は、必ずしも高い必要性を伴わないと考える。 【佐藤委員】 単位制を導入することで、選択必修科目や選択科目を増やすことが可能になるのであれば、幅広い可能性を検討する余地が広がると感じている。 【稲村委員】 単位選択の時期は十分に検討すべきである。 【鈴木】 既存のカリキュラムにおいては、学習範囲や内容、ボリュームに過剰又は重複が見られるなど、最適ではない部分が散見される。そのため、十分な精査を行い、改善に向けた検討を進めて欲しい。 以 上